

総合人間科学系 教職支援センター

過去・現在の「教育政策」のメカニズムを 分析し、未来の制度をデザインする

「いつ、どこで、誰が、誰と、何をした」ゲームを知っていますか。

教育学（教育行政学・教育法学・教育経営学）を専門とする私は、「教育政策」の5W1Hを明らかにする研究をしています。そこでは、歴史の闇に葬られた「文書記録」のアーカイブや、当事者（文部科学省・教育団体・マスコミ関係者など）に対するヒアリング調査（口述記録）を再構成した「オーラル・ヒストリー」の成果を総動員し、ブラックボックス化した政策決定の真相に迫ります。

また、最近では、教育の条件整備や学びのセーフティネットを構築していくために、アクション・リサーチも行っています。

教職支援センター

研究から広がる未来



荒井 英治郎 准教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学後、2009年4月信州大学に着任。全学教育機構講師・准教授を経て、2016年4月教職支援センター准教授。現在は、同センターの地域連携部門長も務める。

「教育に関するヒト・モノ・カネ・情報」の研究も行っています。「教育界の常識は、社会の非常識」と言われて久しく、教育問題の語り方・語られ方は「一億総教育評論家」的状況にあります。これに対して、一般市民の「イメージ」と教育現場の「リアル」を踏まえながら、学校や教育委員会が直面する課題解決や地域連携のコンサルティング、エビデンスに基づいた制度設計の提案を行っています。

卒業後の未来像

自分の「キャリア」（過去・現在・未来の履歴）を考える上で必要なのは、特定の職業（仕事）を発見することではなく「キャリア・アンカー」（自分が大切にしたい価値観や軸）を模索し、その価値観と対話することです。Time is Lifeの精神で、キャリアをデザインする時間を共有していけたらと考えています。



公職選挙法改正（2016年）により「18歳選挙権」時代が到来。大学生と協力しながらアンケート調査を実施し、「若者」と「政治」の関係のあり方を考えるための情報発信を行っています。



オーラル・ヒストリー
（「記憶」の記録化）の成果



アクション・リサーチ
（各種審議会委員）の成果